

2023年10月26日

～ゆふ高原線の風土を感じる新たなD&S列車～ 列車名決定！

特急「かんぱち・いちろく」

2024年春、福岡・大分デスティネーションキャンペーンの開催に合わせてデビューする、新しいD&S列車の列車名が決まりましたのでお知らせいたします。

■ 列車名

特急「かんぱち・いちろく」

久大本線全線開通の実現ならびに現在の久大本線を形作ることとなった歴史的にも縁深いお二人(麻生 観八氏、衛藤 一六氏)のお名前から列車名“かんぱち・いちろく”として運行いたします。

～列車名の由来～

特急「かんぱち」号(運行区間:博多駅から由布院・別府駅)

(ゆふ高原線経由)

ふなこや やつしかしゅぞう
舟来屋(現八鹿酒造)3代目 麻生 観八(あそう かんぱち)氏

明治39年、大分・久留米間の久大線敷設の運動を始める。
当時の鉄道院総裁、後藤新平氏に陳情するなど政府へ働きかけ。
数多の反対を受けながらも久大線敷設の実現を目指し運動を
続け、20年を越す絶え間ない努力の末、昭和4年、久大本線の
引治・恵良・豊後森の各駅が開通。その前年に63歳でこの世を
去り、念願の鉄道開通を見ることは出来なかった。
大分・久留米間が全線開通したのは、昭和9年。



特急「いちろく」号(運行区間:別府・由布院駅から博多駅)

(ゆふ高原線経由)

旧大分県農工銀行頭取 衛藤 一六(えとう いちろく)氏

大正12年に小野屋～湯平間開通後、路線をさらに西へ進めて
いく中で、湯平を過ぎた辺りで線路をカーブさせ、北由布・
南由布両村を通すよう働きかけた有力者。
カーブの部分に南由布駅と北由布駅(現由布院駅)を設け、
大正14年に開通。地元では衛藤一六氏の功績を讃え、
このルートを「一六線(一六曲がり)」と呼ぶようになった。

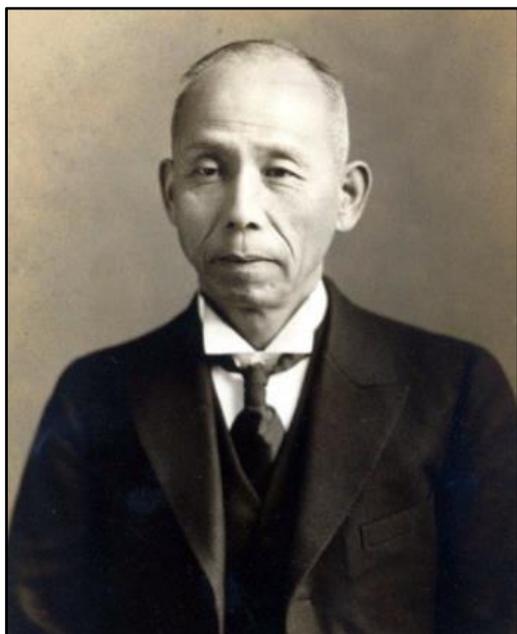


■ その他

車両レイアウト、車両外観・内装デザイン・運転時刻・運転日・停車駅・車内サービス・発売額・発売方法などについては、詳細が決まり次第、順次お知らせいたします。

(別紙:参考資料)

八鹿酒造三代目 麻生 観八氏



- ・慶応元年 日田の豪商 草野家の五男として誕生
- ・明治13年 15歳の若さで麻生家に養子として入る
- ・明治18年 20歳で舟来屋・麻生酒造場を再興
各種公共事業の取り組みをはじめ
井路の建設(農業水利施設)や電気会社の発起人
- ・明治39年 「久大線敷設」の運動を始める
(当時 玖珠郡会議長)
- ・明治40年 右田井路の完成
- ・明治44年 九州水力電気(株)設立 監査役就任
- ・大正4年 大湯鉄道会社により大分～小野屋間開通
- ・大正8年 大分～久留米間 久大線敷設の法案可決
- ・昭和3年 麻生 観八氏 逝去
- ・昭和4年 遺徳をしのぶ人々により銅像が建てられる

【参考文献】八鹿物語(復刻本)、九州の鉄道おもしろ史 【協力】八鹿酒造(株)

旧大分県農工銀行頭取 衛藤 一六氏



- ・明治3年 北由布村溝口家の四男として誕生
- ・明治24年 21歳で衛藤家に養子として入る
- ・大正2年 大分県農工銀行に転じる
- ・大正11年 大分県農工銀行 常務取締役
- ・大正14年 湯平～北由布(現由布院駅)開通
南由布駅、北由布駅開業
駅の開設と並行して北由布村は周辺の道路整備、役場、
小学校などの建設を進めた
のちに、住宅、商店なども建つことで大発展を遂げた
- ・大正15年 大分県農工銀行 頭取
- ・昭和3年 衛藤 一六氏逝去

【参考文献】九州の鉄道おもしろ史 【協力】衛藤 道哉さま

久大本線の変遷(主な出来事)

大正4年 <small>たいとうてつどう</small> 大湯鉄道により大分～小野屋間開通	昭和9年 久大線に編入、大分～久留米間開通
大正8年 大分～久留米間 久大線敷設法案可決	昭和12年 久大線から久大本線となる
大正12年 国鉄により小野屋～湯平間開通	昭和25年 北由布駅が由布院駅に改称
大正14年 湯平～北由布間開通 南由布駅、北由布駅開業	平成元年 特急「ゆふいんの森」デビュー 平成16年 特急「ゆふ DX」デビュー
昭和4年 豊後森駅まで延伸開通	平成27年 JRKYUSHU SWEET TRAIN「或る列車」デビュー
引治駅・恵良駅・豊後森駅開業	2024年春 特急「かんぱち・いちろく」デビュー(予定)

<別紙:(参考)特急「かんぱち・いちろく」概要>

■コンセプト

「ゆふ高原線の風土を感じる列車」

“風土”すなわち、その土地の気候や地勢、そこから生み出される土地の食や風習、風景を五感で楽しむ列車です。

■運行ルート

博多駅からゆふ高原線(久大本線)を經由し由布院・別府駅間を1日片道1便運行します。(※木曜日運休)



列車名	運行パターン	月	火	水	木	金	土	日
特急かんぱち号	博多⇒由布院・別府	○		○	—		○	
特急いちろく号	別府・由布院⇒博多		○		—	○		○

新D&S列車は、博多～別府間を約5時間かけて運行いたします。
全席グリーン席の車内では、ゆふ高原線沿線の食材を中心に福岡・大分両県の魅力が詰まったお食事(お弁当)をご用意し、車内でのひと時を贅沢に彩ります。

■デザイナー

イフー
株式会社 IFOO

<会社概要>「【温故生新】～時間の中に埋もれた価値に光を当てる～」ことを経営理念とし、地方が掲げる「地方創生(豊かな場づくり)」を、鹿児島県の食・建築文化を通して価値を再変換し発信することを目指すデザイン会社。鹿児島市内では、鹿児島の手仕事、建築文化を五感で感じながら滞在できる高級民泊施設「萌葉(ほうげつ)」を運営。

※株式会社 IFOO さまは九州 DreamStation にぎわいパートナーです。

■使用車両(車両編成)

3両編成(キハ47、125、47)全席グリーン席

1・3号車:座席(キハ47形2両 特急いさぶろう・しんぺい)、2号車:ビュッフェ(キハ125形1両)

※キハ125形:2023年10月2日 小倉総合車両センター入場

※キハ47形特急いさぶろう・しんぺい:2023年10月4日 小倉総合車両センター入場



キハ47形特急いさぶろう・しんぺい



キハ125形

■運行開始時期

2024 年春(予定)